

# 健康保険

2015  
October

10

特集

## 健保組合業務における マイナンバー

マイナンバー(社会保障・税番号)制度の施行と将来の利活用

マイナンバーと健康と企業経営

個人情報としてのマイナンバーの管理

■健保連・霜鳥一彦理事インタビュー

マイナンバー制度の導入にあたって

■健康強調月間 第50回記念イベント

「“すこやか”保健事業表彰」の応募要領

やまけんの  
日本まるごと  
食探訪  
高知県  
四万十市

健康保険。みらいのために、今、変えよう。

あしたの健保プロジェクト

2 016年4月の診療報酬改定に向けた論議が本格化してきたが、不透明感を増してきた国際的な経済情勢、わが国の厳しい財政と国民生活の状況などから、医療費の徹底した効率化が最大の課題であり、健保連としてもそうした観点に立って社会保障審議会医療部会、中医協等における審議に臨んでいきたい。

近年、高齢者医療、大病院の急性期医療などの分野で診療報酬の包括化が進められ、医療費の適正化だけではなく医療の質の向上に相当の成果を上げてきている。そうした方向性を推し進める観点から、欧米での取り組みやわが国のDPC実施などの

もたらした効果を検証し、新たな仕組みの導入に向けた積極的な検討が不可欠である。アメリカでは、急性期から回復期での入院・再入院、外来・在宅医療などを含めたエピソード単位の支払制度が13年1月から試行的に実施されている（治療の向上のための入院・外来包括支払制度（BPCI））。整形外科手術については、導入前と比較して死亡率や

予定外の再入院率には有意な変化（悪化）がなく、かつ、急性期病院への在院日数の有意な減少や急性期後の医療機関の利用率の減少が報告されている。

健保連は、健保組合のレセプトデータを基に14年度診療報酬改定後の医療動向の分析評価をおこなった。14年度改定で拡大された「短期滞在手術等基本料3（以下、「短期滞在3」）に関しては、対象手術などの外来

## 診療報酬改定にあたっての 新たな視点と 取り組みを期待する

実施割合は改定前後で有意な変化はみられなかった。一方、入院については「出来高払い」から「短期滞在3」への移行がみられた。

平均在院日数は「短期滞在3」と「出来高払い」とを比較すると、8つの疾患で有意に短縮されている（最大1・26日）。

しかし、「短期滞在3」の医療費は改定後、全般的に増えている。在院日数5日以内の

症例の比較では、10の対象手術で平均医療費は有意に高くなっていた（最大24%増）。また、「短期滞在3」と「出来高払い」の平均医療費を比較すると、14の対象手術などで有意に高く（最大53%増）なっており、適切なレベルの診療報酬の設定の必要性が明らかになった。たとえば、水晶体再建術では、入院後5日目までは出来高による算定額を超えるような点数設定となっており、6日目以降出来高に移行することも考慮する

にその見直しが必要である。前回（13年）提言している1入院包括対象の19手術のなかには、「短期滞在3」の対象とすべきものもあり、対象手術拡大についても検討すべきである。

なお、12年度改定で単なる栄養目的の算定が不可となったビタミン剤処方、適応病名ありの割合が改定前に比べて高くなったり、依然として適応病名のない処方引き続きおこなわれている実態もある（ビタミンAでは56・1%）。嚥下や咀嚼の障害、精神衰弱などでビタミンを食事により摂取することが困難である場合などに限定すべきであろう。